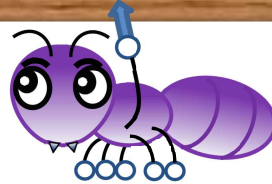


目次

学年	単元名	ページ	教師の働き掛け
第5学年	物の溶け方	1	第4時ア, オ 第12時ア, ク
	電流の働き	7	第5時イ, コ 第6時シ
	振り子の運動	13	第2時ア, コ 第7時テ
	植物の発芽, 成長, 結実	19	第1時キ, ク 第2時ケ, コ, サ
	動物の誕生 (魚・人)	25	第1時ウ, オ 第5時テ
	天気の変化 (天気・台風)	31	第6時ス, セ, ト 第7時テ
	流水の働き	37	第1時ア, カ 第6時ア, カ, ク 第7時ソ, タ 第10時テ
第6学年	燃焼の仕組み	47	第2時オ, ケ 第4時ア, ト 第5時ツ
	水溶液の性質	55	第4時イ, テ 第10時ア, ソ
	てこの規則性	61	第1時イ, コ 第10時ア, テ
	電気の利用	67	第2時ア, オ 第11時コ
	人の体のつくりと働き	73	第5時ウ, コ 第8時オ, タ
	植物の水の通り道と養分	79	第1時ア, キ, ク 第5時カ, ク
	生物と環境	85	第4時工, チ 第5時カ, タ
	地球に生きる	91	第1時工, サ 第8時テ, ト
	月と太陽	97	第3時イ, ク 第4時サ, シ
	土地のつくりと変化	105	第6時ア, コ 第11時ア, セ

授業案の見方



本時のねらい

「何を学ぶか」
本時の学習で児童に身に付けさせたい内容

本時で目指す児童の姿

「何ができるようになるか」
「アクティブ・ラーニングの視点による理科授業構想表」に示した「目指す児童の姿」を、本時のねらいや活動に沿って具体化した姿

本時の学習活動

「どのように学ぶか」

- 児童の学習活動
- 学習形態
- 期待する児童の反応

第5学年 「物が水に溶ける量に限りがあるか調べよう」 4/17 時

本時のねらい
○ 物が水に溶ける量に限りがあるかどうかについて疑問を持ち、考えようとする。

本時で目指す児童の姿
①、② 濃い食塩の水溶液では、シュリーレン現象があまり見られないことから、「食塩が水に溶ける量には限りがあるのだろうか」という疑問を持ち、その疑問を説明できる。

準備物
□ 投入ティーパーグ □ ペットボトル □ 割り箸 □ 食塩の水溶液（飽和）
教師の働き掛け、留意点

本時の学習活動

1 [A]は薄い食塩の水溶液 [B]は濃い食塩の水溶液であることを知り、[A]と[B]2つのシュリーレン現象を比べ、疑問に思ったことを話し合う。
《グループ》

発問 [A]と[B]の水溶液に食塩を溶かしたとき、溶ける様子はどのように見えるでしょうか。

※ シュリーレン現象は、第1時で児童が行っている。シュリーレン現象とは、水の中の濃度の違う場所で屈折率が変化し、もやもやとした影が見える現象のこと。

※ [A]薄い食塩の水溶液と[B]濃い食塩の水溶液の入ったペットボトルに、食塩を入れたティーパーグを入れるとどのようなようになるかを観察させる。

アクティブ・ラーニングの視点

自然事象への働き掛け
ア【主体的な学び】
疑問を持たせる事象提示を行う。
<活動事例>
・ 2つの事象（[A]薄い食塩の水溶液、[B]濃い食塩の水溶液にそれぞれ投入ティーパーグを入れる。）から、「[B]の水溶液では、溶けていく様子がゆっくり見えるのはなぜか」という疑問を持たせ、説明させる。

（指示） [A]と[B]の食塩が溶ける様子の違いについて説明しましょう。

児童・ [B]は[A]よりゆっくり溶けていた。どうして、[B]はゆっくり溶けていったのか。

発問

（指示）

※

- 観察・実験において配慮すべきこと
- 児童の実態や学習環境の違いによって必要だと考えられる手立て

アクティブ・ラーニングの視点

- 「アクティブ・ラーニングの視点による理科授業構想表」を基に設定
- は、問題解決の過程
 - ア～トは、教師の働き掛け
 - 【 】 は、教師の働き掛けによって導かれる主な学び
(「主体的な学び」・「対話的な学び」・「深い学び」)
 - <活動事例> は、教師の働き掛けの具体